

第3回 寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議

日時：平成26年8月7日（木）10：00～

場所：寝屋川市役所議会棟4階第1委員会室

1. あいさつ

会長（代理）開会のあいさつ

2. 会員等の紹介

各会員 自己紹介ならびに近況報告

事務局 あいさつ

3. 案件

（1）産業振興に関する市の施策について（平成26年度実施分（予定含む））

（事務局）

産業振興室が平成26年度に実施している主な施策について、スライドを用いてご説明させていただきます。お手元の資料もあわせてご覧下さい。

（商業、工業、農業、ベンチャービジネスコンテストの順に説明）

※資料参照

【質疑応答】

（会員） ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテストについて、二次審査の審査員の人数などは決まっているのか？

（事務局） 二次審査については1部門につき5名の審査員を予定しています。内訳につきましては、部門に関係する経済産業団体から推薦された者、寝屋川市経営支援アドバイザー、産業振興室職員などを予定しています。

（会員） 来年1月28日に開催されるグランプリ発表会は、何時から行われるのか。

（事務局） 時間は午後1時30分からの開催予定です。

（休憩）

（会長） 先ほど事務局より今年度の市の施策について説明がありましたが、市から連絡調整会議会員の皆さまにご提案とお願いがあります。

まず一つ目は、農業の施策の中で先ほど説明があった農産物品評会についてです。この品評会は農政推進協議会によって開催されており、夏はイチジク、秋は野菜の品評を行っています。しかし、夏が旬の野菜もあるので、季

節ごとにイチジク、野菜と分けるのではなく、作物の品評会として、夏秋に開催してはどうかという意見が協議会の中から出ました。さらに市からも、農産物品評会を作物の品評だけにとどまらず、もっと活用できないかという提案をさせていただきたいと考えております。農産物は、都市農業であるため多品種少量生産になるのは否めませんが、産業振興条例の中でも地産地消、旬産旬消を掲げており、この品評会を市民に広く知ってもらうためにも、条例の基本的考え方である「連携・協働」を念頭に、例えば、寝屋川市商業団体联合会さまに品評会へ参加いただき、市内で収穫された農産物を商店街や個店の方にご覧いただき、試食などを通して、お店の商品として取り扱っていただければ、市内農作物に対する需要も増えるのではないかと思います。これが条例で掲げるまさしく「分野間連携」であり、ご協力いただきたいと思います。

次に、これも先ほどご説明させていただいた、ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテストについてです。この事業については今年度からの実施ですので、特に学校法人の会員の皆さまへのお願いですが、教員や学生のなかでコンテストに興味がある方がいらっしゃれば、事務局より概要説明へ伺いますので、遠慮なくおっしゃってください。また、会員の皆さまへは、コンテストの各賞に対する副賞のご提供をお願いしたいと思っております。

(会員) 副賞について、金額などの設定はありますか。

(会長) 全部で4部門ありますので、バランスを取りたいと考えております。また改めて個々にお聞かせいただきたいと思います。

(会員) さきほどイチジク品評会についてですが、旬の時期には近くのケーキ店でもとてもおいしいイチジクのケーキが販売されている。市内のケーキ店でもそのようにイチジクのケーキが有名になれば、よいのではないか。

(会長) そういった形で生産者の取組を、品評会を通して、まずは商業団体联合会さまに知っていただき、広まっていけばいいと思います。

(会員) イチジクはもうすぐ最盛期だが、作付け自体は減ってきているのが現状である。朝市にも出荷されており、一番の売れ筋だと聞いている。しかし、農業者の高齢化が進み、新植はできない。商工農の連携で第六次産業へと発展させたい気持ちはあるが、現状は厳しい。

(会長) 供給側からみても、需要を作り出す取組の一つとして、品評会に商業団体

連合会に参加していただき、先ほどのケーキの話のように、お店で使っただけでそれが特産品になれば、市も様々な形で情報発信することができます。学生の方々は顧客として、市の農産物をぜひ食べていただきたいです。また、コンテストへ参加することは、学生さん自身の経験にもなるが、寝屋川市を知っていただくきっかけにもなるのではないかと考えています。

(会員) ベンチャービジネスコンテストは、今までの工業部門だけでなく、商業等の分野も設けられており、学生さん達のアイデアに期待している。商店街は本来、「商品を売る」場所であったが、物販は3割に減っており、残りは3割が飲食店、3割がサービス業（整骨院・塾など）である。学生さんからのアイデアも物販だけでは厳しいかなと思う。「商店街は物販」「量販店は敵だ」と考えている人もいるが、現実的にはそれではやっていけない。どうすれば量販店やサービス業と共存共栄できるかを考えていくべきで、そのあたりを学生さんに提案してもらえたらと思う。先ほどのイチジクの話については、まちづくりに積極的な飲食店を中心に、品評会への参加も含めて取り組んでいければと考えている。

(会員) 先ほど、国の補助金の採択結果についての説明があったが、市としてどの程度採択に向けての支援されているのか。私も事業を行う中で、今も積極的に補助金申請を行っているが、市内事業者の中には素晴らしい技術を持っているながら、膨大な書類の作成等に気後れして申請できていない事業者もいるのではないかと。アドバイザーも含めて、市として積極的に関わっていただくことで、雇用はもちろん、事業者の利益にも繋がると思う。そのあたりにもう少しエネルギーを注いでいただければありがたい。

(事務局) 市内事業者からは、今おっしゃられた通り、申請書の作成が大変だという声をたくさん聞いています。市として1社でも多く採択へ結びつけるため、平成26年度はものづくりを専門としたアドバイザーを2名増員しました。補助金申請の際には、事業所へ出向き、申請内容の校正などを実施しています。さらに、採択されなかった事業者について、審査機関へ出向いて不採択の理由を聞きに行くことで、次の申請へと繋げています。

(会員) 今回の補助金は国の緊急経済対策の一つであるが、これに限らず毎年膨大な補助制度が発表されているので、採択に繋がるよう、市として力を注いでいただきたいと思う。

(会員) 商業も先ほど、国の補助金の採択結果についての説明があったが、昨年度は、補助金申請の際に書類作成に時間を要し、また、補助金の支払が事業終了後であり、それまでの費用の工面が大変だったという話を聞いている。さらに、採択されたものの実行できなかった事業も少なからずあった。補助金の採択を受けたが、なかなかうまくいっていないのが現状である。ただ、今年申請時から市の支援を受けることで、採択を受けていると聞いている。

(会員) 今おっしゃられた通り、申請にはとても苦勞するし、時間も要する。一番良い方法は、審査機関に直接質問しに行くことだと思う。私も分からないことは何度も足を運んで聞きに行った。何度も出向くことで審査機関側も親身になってくれると思う。

(会長) 補助金申請の際は、不採択の場合は何がダメだったのかをも含めて、次へつながる支援を担当者はもちろん、経営支援アドバイザーを中心に実施しております。今おっしゃられたように、国の補助金申請の手続きは非常に複雑だが、これからもできるだけ支援していきたいと考えているので、事業者のみなさまも、今後も積極的に補助金の活用を検討いただきたいと思います。

(2) 会員の皆様からの情報提供について

(事務局) まずは〇〇さんお願いします。

(会員) ネオニコチノイドというカメムシ用の農薬について配布資料に記載しています。先日新聞にも載っていたが、ミツバチの大量死を引き起こしているとのこと。ゴキブリ用のくすりもホウ酸を使って手作りのほうがいいと思っている。また、消費者教育を推進する法律が施行された。今まで学校では消費者についての教育はおろそかにされてきたが、法律の施行がよききっかけになればと思っています。

(事務局) 続きまして、〇〇さんお願いします。

(会員) 前回の会議でもご説明させていただいた、堀溝小校区の買い物事情についてですが、地域の高齢化に伴い、歩いて 10 分圏内で用事が済むことが理想だということで、堀溝小及び河北バス停を起点に地図を作成しました。また、今までは店舗の集積している駅周辺へのアクセス方法について考えてきたが、少し視点を変えて、堀溝小校区へ店舗の誘致はできないかと考えてみました。近隣の四條畷、門真を含め、どのくらいの人口、世帯数があればお店

を誘致できるのかと思います、みなさまからのご意見をいただきたいと思います。

(会長) このエリアが買い物に対して不便であるのは、市としても認識していますが、店舗立地に関しては、市域は関係なくマーケティングしていると思います。農地が残っている地域でもあり、開発の余地も残されていますが、市として今のところその予定はないが、現状については認識しております。

(会員) 出店する側からすれば、市域は関係ないと思う。周辺には大型量販店もあるので、なかなか難しいのではないかと。元気わくわく商品券の取扱店もなく、ご不便をお掛けしていることは申し訳なく思っている。

(会長) 集積地に向けてのアクセス方法を考えるのも買い物弱者対策の一つの方法かなと思っています。「タウンくる」もあるが、量販店方面へ行くバスはないので、バス会社への委託など費用がかかるのも事実だが、これから高齢化が進むにつれて真剣に考えなければならない課題である。循環バスと電車を活用している地域もある。今は堀溝小地区だけの問題でも、今後は市全域に関わってくると思うので、市としても研究すべき重要な事案であると認識しています。

(会員) 15分ほど歩けば(1km以上)大型量販店へ行くこともできるが、行きはよくても帰りは荷物もあり、徒歩で行くのは大変である。

(会長) これこそまさに「ベンチャービジネスコンテスト」にマッチする課題であり、学生の皆さまへ是非プラン提案をしていただきたいと思います。ビジネスとして成り立つかは別として、学生さんの目線でこの課題解決プランを提案していただきたいです。

(事務局) 続きまして、〇〇さんお願いします。

(会員) 1つは、オープンキャンパスのご案内ですが、お近くでありますので、大学がどんなところか見に来ていただきたいと思う。もう1つは、地域連携センターの資料で、大学の教員がどのような研究を行っているかを記載しています。地域産業及び市民の皆さまに対してこういった支援ができるということを記載しているので、今後の参考にしていただければと思う。

(事務局) 続きまして、〇〇さんお願いします。

(会員) 今年度は、クーポン発券事業を地域活性化事業として府の支援を受けて年2回発行している。既に1回目の配布は終了しましたが、次回の発行は寝屋川市内を中心にと考えておりますので、掲載募集していますのでご検討くだ

さい。また、企業の PR 動画作成や求職者の支援事業も実施しています。その他、地域ポータルサイト、ジョブカードのご案内等を入れておりますので、ご一読いただければと思います。

また、3つの商工会議所が連携して「^{スリー}3 大阪ものづくり相談所」をネット上に開設しました。事業所のマッチング支援を中心に実施しています。最後に小学5, 6年生を対象に、次世代育成を目的とした勉強会、セミナー、かたのマルシェで販売体験などの職業体験事業も行っています。お時間があれば一度足を運んでいただければと思う。

(事務局) 続きまして、〇〇さんお願いします。

(会員) この会議の前身であった意見交換会で会員の方からもよくお話いただいた、「ねやバーガー」を今日はみなさまにお持ちさせていただきました。パン生地に大葉を練りこんで、その他の材料もできるだけ寝屋川産のものを使用しています。最初は4年前に市からの支援を受けて、青年部が中心になって寝屋川のイメージアップのために作ったが、これからは各店がオリジナルの「ねやバーガー」を作ろうと、現在4店舗でそれぞれの「ねやバーガー」を販売しています。地域活性は達成できたと思うが、これからは各店舗が商業活性につなげていければと考えている。

(事務局) 次の連絡調整会議は、来年2月の開催を予定している。また、昨年実施した市内へのフィールドワークについても10月に実施する予定である。ベンチャービジネスコンテストの審査に関しても、後日依頼させていただく予定である。

(会長) 本日は長時間にわたり、ありがとうございました。この会議では産業のことはもちろん、地域のこと、団体の取組、市の施策を通して情報交換することで地域の活性化へとつなげていければと考えております。市としましても、産業振興条例に基づき地域産業のさらなる活性化、安定化へ向けて取り組んでまいります。また、来年1月28日にはベンチャービジネスコンテストのグランプリ発表会をアルカスホールにて開催しますので、ご協力よろしく申し上げます。